

## 令和2年度 学校評価自己評価書

学校名

北海道札幌養護学校

## 1 本年度の重点目標

□児童生徒が自ら活動に取り組み、必要な資質・能力を身につけ高められるよう「わかりやすさ」「伝わりやすさ」を重視し、人との安定したやりとりの活性化や思考を深める学習活動を充実する。

## 2 本年度の経営方針

- 教職員一人一人の経営参画のもと、協働体制による計画的、組織的な運営を推進する。
- 改訂学習指導要領の背景、趣旨に応じて、教育課程、教育環境等を改善・充実する。
- 各部署の機能的な連携や業務の効率化による、時間外勤務の縮減及び円滑な運営を推進する。
- 地域や保護者、関係機関等に教育内容・方法等を積極的に公開、説明することにより、より一層信頼される学校づくりを推進する。
- 地域の特別支援教育センターとしての役割を果たし、地域の学校、関係機関等との連携を充実する。
- 「わかりやすさ」「伝わりやすさ」を重視し、言語環境、学習環境を整備・充実するとともに、合理的配慮を充実する。
- 校内支援体制を充実し、安全安心に配慮した学習環境を整備する。
- 危険回避や予防的な対応を重視し、迅速で機能的な危機管理体制を整備・充実する。
- 緊急性、必要性、優先性に基づいた計画的な予算執行及び円滑で適正な事務処理を推進する。
- 学校評価や学校評議員会等の外部評価を活用し、経営上の課題を明確にした改善・充実を推進する。
- 教育公務員として、身なりや言動に留意し、服務規律を厳正に遵守し、職責や役割を果たす。

## 【本年度の経営の重点】

「わかりやすさ」「伝わりやすさ」を重視した情報共有、情報発信を進め、役割を明確にし、機能的な連携を深め、教育活動の改善・充実を進める。

- 校内組織体制、教育活動等の経営に関する課題の明確化や、改善・充実に向けた取組を推進する。
- 教務、事務、各部間の事務処理等の効率化、迅速化及び機能的な連携を推進する。
- 一人一人が職責と役割を自覚し、職員の相互理解と協働による円滑な職務遂行を推進する。

## 3 自己評価結果

- ◆ 評価段階：A（十分である、3.5以上）・B（おおむね十分である、3.0以上3.5未満）・C（不十分である、2.5以上3.0未満）・D（改善を要する、2.5未満）

	評価項目	達成状況 (教職員)	取組の適切さ (保護者)	検討事項・改善の方策等
1	人権尊重を基盤として、児童生徒のよさを活かし、可能性を最大限に引き出す指導に努めている。	A	A	・8割以上の保護者は、学校の取組を評価している。今年度は保護者からの自由記述による指摘はなかったが、教職員の自由記述では、教職員の言動への指摘があることから、児童生徒の人権尊重の意識を一層醸成していく。
2	活動選択や意思表示等により、児童生徒の主体的な活動を引き出し、やりとりの活性化をとおして思考を深める体験的な学習指導に努めている。	A	A	・保護者は、学校の取組を高く評価しているが、教職員は、取組が不十分と受け止めていることから、新学習指導要領で重視されている「主体的・対話的で深い学び」に向けた学習指導を推進していく。
3	キャリア教育の視点から、学校間、学部間の接続を考慮し、卒業後の生活を見据えた進路指導に努めている。	B	A	・今年度はコロナ対策により、各学部で予定していた進路懇談の中止や進路学習の縮小などを行ってきたこともあり、保護者からは、評価しづらいという意見もあった。コロナ禍における進路指導の在り方について工夫していく必要がある。
4	ウェブページや学校だより、学年通信等で児童生徒の様子や学校の教育活動等をわかりやすく伝えている。	B	A	・保護者評価及び教職員評価ともに、昨年度の評価と同等であった。保護者の自由記述では、Web ページがわかりづらいので改善してほしいという意見があった。また、コロナ対策により、日常の学校生活を見る機会が少なくなったので、学年通信等でもう少し詳しく伝えてほしいという意見もあった。具体的でわかりやすい表現での説明に一層努めていく。
5	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域に本校の教育課程をわかりやすく伝えることができるよう理解に努めている。	B	A	・新学習指導要領を踏まえた教育課程の理解に向け、学部ごとの教職員研修を推進したこともあり、教職員の評価は昨年よりも1ポイント上がった。今後も教職員研修を推進し、教育課程の理解の深化を図っていく。
6	コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用した学習指導の充実を図っている。	B	B	・教職員評価、保護者評価とも評定値が下位に位置しているが、昨年度より下位評価のポイントが少なくなっている。GIGAスクール構想を踏まえ、ICT教育の一層の推進に努めていく。

7	個別の指導計画に基づいて行われた学習状況や結果を評価し、指導目標や指導内容、指導方法の改善を図っている。	B	A	・保護者には、学校の取組が着実に理解されており、教職員も説明を丁寧に行っていることから、指導に対する目標の設定や評価、改善の充実を一層図っていく。
8	授業者支援会議や授業公開等、他者からの意見を踏まえて、授業改善を図っている。	B	A	・今年度はコロナ対策により、授業公開を中止したことから、教職員評価では上位評価が少なくなった。保護者の自由記述では、学校での様子を見たり、話を聞く機会が少なくなったので、オンラインや動画で授業の様子を見ることを検討してほしいという意見があった。コロナ禍においても、保護者とのやりとりを大切にし、他の教員からの意見を取り入れた授業改善を図っていく。
9	児童生徒の健やかな成長を図るため、PTAの活動に積極的に参加している。	C	A	・今年度はコロナ対策により、PTA総会を書面審議としたり、各部会の活動を中止したりしていることから、教職員評価における上位ポイントが下がっている。コロナ禍におけるPTA活動の在り方について工夫していく必要がある。
10	いじめ、体罰や不適切な言動等のない安心・安全な学校づくりに努めている。	A	A	・保護者評価及び教職員評価ともに高い評価を得ている。今後も指導の一層の充実を図るとともに研修等と通じて児童生徒の人権尊重の意識を醸成していく。
11	「学校の新しい生活様式」など、国や道の通知に沿って、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めている。	A	A	・教職員評価、保護者評価ともに、上位評価を占めており、今年度、一番評価の高かった項目である。「新しい生活様式」の推進や感染症発生時の対応などにおいて、教職員の共通理解を図り、保護者の理解、協力をいただくことができた。今後も感染症の拡大防止に努めていく。

	評価項目	達成状況 (教職員)	検討事項・改善の方策等
本校 校 設 定 項 目	職責と役割を自覚し、職員の相互理解と協働による円滑な職務遂行を行っている。	A	・職員間の分業や相談・連携などの取組が浸透しており、協力体制のもと指導が行われている。教員の職責や役割など、教員としての基本的な資質能力の育成を図るため、あらゆる機会を通じて研修を実施する必要がある。
	「ワークライフバランス」を意識した働き方を心がけるなど、健康でやりがいをもって勤務できるよう、業務の改善を図っている。	B	・今年度から出退勤管理システムの導入があり、勤務時間の実態を把握することができた。全体的に業務量過多のため、各運営組織において業務内容の整理・廃止などを検討してきた。退勤時間を意識した働き方や業務のスリム化について、一人一人が意識しながら業務の改善を図っていく。
	道徳教育を通じて、児童生徒に自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性の育成に努めている。	B	・評価を意識した道徳教育の取組に向けて、教育課程研修等を通じて各学部ごとに理解を深める取組を推進してきた。各職員の意識的な取組は増えているが、道徳教育の目標や指導内容、評価の在り方について整理していく必要がある。
	各教科、各領域及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導に努めている。	B	・学年単位での教育活動は、各指導内容と関連付けながら取組が進められている。一方、各学年集団に一定の規模があることから、学年間、学部間での取組の推進には課題が残る。
	特別支援学校職員としての専門性を高める研修を実施し、児童生徒の指導や分掌業務に活かしている。	B	・今年度はコロナ対策により、長期休業期間中の研修会を自粛する動きがあり、校外研修はほとんど実施されなかった。オンラインによる研修の機会が、少しずつ増えてきたので、積極的な参加を促すなど、教職員における学びの保障も大切にしていく。

#### 4 自己評価における特記事項

○ 昨年度新たに見直した、「3カ年継続の学校評価」の2年目として実施する。今年度、重点的に取り組んできた新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の項目を追加し、評価する。
---

5 保護者アンケート自由記述の項目

生徒指導に関する対応	学びの保障	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	P T A 活動
授業参観	学校行事	w e b ページ	スクールバス

6 教職員アンケート自由記述の項目

生徒指導	働き方改革	業務の効率化と適正な校内人員配置	危機管理
教育課程	職場環境	職員研修	情報教育